



IM アドレススキームの設定

- [IM アドレススキーム](#) : (1 ページ)
- [IM アドレススキーム](#) : (3 ページ)
- [IM アドレススキームのタスクフローの設定](#) (3 ページ)

IM アドレススキーム :

IM and Presence Service は、次の 2 種類の IM アドレス指定スキームをサポートしています。

- *UserID@Default_Domain* が、IM and Presence Service をインストールした場合の、デフォルトの IM アドレススキームです。
- Directory URI IM アドレススキームは、複数のドメイン、ユーザのメールアドレスの調整、および Microsoft SIP URI の調整をサポートしています。

すべての IM and Presence Service クラスタ全体で、同じ IM アドレススキームを使用する必要があります。

User@Default_Domain を使用した IM アドレス

UserID@Default_Domain が、IM and Presence Service をインストールした場合の、デフォルトの IM アドレススキームです。

UserID@Default_Domain の IM アドレススキームを使用すると、すべての IM アドレスが単一のデフォルト IM ドメインの一部となります。デフォルトドメイン値は、すべてのクラスタ全体で一貫している必要があります。IM アドレスは IM and Presence のデフォルトドメインの一部であるため、複数ドメインはサポートされません。

UserID は、フリーフォームまたは LDAP から同期することができます。次のフィールドがサポートされます。

- sAMAccountName
- ユーザプリンシパル名 (UPN)
- メールアドレス

- 従業員番号
- 電話番号

UserID を Cisco Unified Communications Manager の LDAP フィールドにマップする場合、その LDAP マッピングはすべてのクラスタ全体で一貫している必要があります。

ユーザ ID は電子メールアドレスにマッピング可能ですが、それが IM URI が電子メールアドレスと同じであるという意味ではありません。代わりに `<email-address>@Default_Domain` となります。たとえば、`amckenzie@example.com @sales-example.com` です。選択した設定をマッピングする Active Directory (AD) は、IM and Presence Service クラスタ内のすべてのユーザに対してグローバルに適用されます。個々のユーザに対して異なるマッピングを設定することはできません。

ディレクトリ URI を使用した IM アドレス

ディレクトリ URI のアドレススキームを使用して、ユーザの IM アドレスを Cisco Unified Communications Manager のディレクトリ URI に合わせます。

ディレクトリ URI の IM アドレススキームには、次の IM アドレス指定機能があります。

- 複数ドメインのサポート。IM アドレスは、1 つの IM and Presence Service ドメインだけを使用する必要はありません。
- ユーザのメールアドレスの調整。ユーザのメールアドレスと合わせるように Cisco Unified Communications Manager のディレクトリ URI を設定することで、メール、IM、音声、および動画の通信にユーザの ID を一貫して指定できるようになります。
- Microsoft SIP URI の調整。Microsoft SIP URI と合わせるように Cisco Unified Communications Manager のディレクトリ URI を設定することで、Microsoft OCS/Lync から IM and Presence Service への移行時に、ユーザの ID を確実に維持できるようになります。

IM アドレススキームとしてディレクトリ URI を使用するようにノードを設定する場合は、ディレクトリ URI をサポートするクライアントのみを展開することを推奨します。ディレクトリ URI をサポートしないクライアントは、ディレクトリ URI IM アドレススキームが有効になっている場合は動作しません。ディレクトリ URI をサポートしないクライアントが展開されている場合は、`UserID@Default_Domain` IM アドレススキームを使用し、ディレクトリ URI IM アドレススキームは使用しないでください。

ディレクトリ URI IM アドレス設定はグローバルであり、クラスタ内のすべてのユーザに適用されます。クラスタ内の個々のユーザに対して異なるディレクトリ URI IM アドレスを設定できません。

外部 LDAP ディレクトリからのディレクトリ URI のプロビジョニングの詳細については、[LDAP ディレクトリの設定](#)を参照してください。

複数の IM ドメイン

IM and Presence Service は、複数の IM アドレス ドメイン全体で IM アドレッシングをサポートし、システム内のすべてのドメインを自動的にリストします。ドメインの追加、編集、または削除を行うことができます。IM ドメインの設定の詳細は、[ドメインの設定の概要](#)を参照してください。

Cisco Expressway を相互運用している場合は、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/expressway-series/products-maintenance-guides-list.html>の *Cisco Expressway* 管理ガイドを参照してください。

IM アドレススキーム :

IM and Presence Service のデフォルトドメインと、使用する IM アドレススキームは、IM and Presence Service クラスタ全体で一貫している必要があります。はじめに、[IM and Presence Service のデフォルトドメインの設定](#)。

設定する IM アドレススキームはすべてのユーザ JID に影響を与え、別の設定を持つ可能性があるクラスタ間での通信を中断せずに段階的に実行することはできません。

展開したクライアントが IM アドレスとしてディレクトリ URI をサポートしない場合は、管理者がディレクトリ URI IM アドレススキームを無効にする必要があります。

IM アドレススキームのタスクフローの設定

IM アドレススキームを設定するには、以下の順序でこのタスクを完了してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ユーザプロビジョニングの確認 (4 ページ)	エンドユーザが適切にプロビジョニングされていること、および重複しているユーザまたは無効なユーザがないことを確認します。
ステップ 2	高可用性の無効化 (5 ページ)	プレゼンス冗長グループの高可用性は、一時的に無効にする必要があります。IM アドレススキームを設定するには、一時的にサービスを停止する必要があります。高可用性が有効のままサービスを停止すると、システムフェールオーバーが発生します。
ステップ 3	サービスの停止 (5 ページ)	IM アドレススキームの設定を更新する前に、基本の IM and Presence Service を

	コマンドまたはアクション	目的
		停止します。必ず所定の順序でサービスを停止してください。
ステップ 4	IM アドレススキームの割り当て (6 ページ)	新しいドメインおよび IM アドレススキームを設定したり、既存のドメインおよびアドレススキームを更新したりするには、次の手順を使用します。
ステップ 5	サービスの再起動 (8 ページ)	IM アドレススキームを設定したら、サービスを再起動します。これは、ユーザアドレス情報を更新したり新しいユーザをプロビジョニングしたりする前に実行する必要があります。サービスの起動は、必ず所定の順序で行ってください。
ステップ 6	高可用性の有効化 (9 ページ)	IM アドレススキームを設定し、IM and Presence Service を再起動した後で、プレゼンス冗長グループの高可用性を有効にすることができます。高可用性を有効化する前に、すべてのサービスが IM and Presence データベースパブリッシャノードおよびサブスクライバノードで稼働していなければなりません。
ステップ 7	IM アドレススキームとしてディレクトリ URI を選択した場合： <ul style="list-style-type: none"> ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て (10 ページ) ディレクトリ URI の手動割り当て (11 ページ) 	オプション。外部 LDAP ディレクトリからユーザを同期している場合は、ディレクトリの URI 値の [LDAP ソース] フィールドを設定します。 LDAP 以外のユーザの場合は、ディレクトリ URI を手動でプロビジョニングする必要があります。これは、ユーザ単位で行うか、一括管理ツールを使用して行うことができます。

ユーザプロビジョニングの確認

アドレススキームを設定する前に、この手順を使用して、エンドユーザが適切にプロビジョニングされていることを確認してください。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、**診断** > **システムのトラブルシューティング** を選択します。

システムのトラブルシューティングが実行されます。

ステップ 2 ユーザのトラブルシューティングのセクションで、エンドユーザが適切にプロビジョニングされていること、また、重複しているユーザまたは無効なユーザがないことを確認します。

次のタスク

[高可用性の無効化 \(5 ページ\)](#)

高可用性の無効化

各プレゼンス冗長グループに対する高可用性を無効にします。アドレススキームを編集するには、サービスを一時的に停止する必要があります。高可用性が有効になったサービスを停止すると、システム フェールオーバーが発生します。

始める前に

各プレゼンス冗長グループの各クラスタ ノードのアクティブ ユーザ数を記録します。この情報は、Cisco Unified CM IM and Presence の **(System > Presence Topology)** ウィンドウに表示されます。この番号は、後に高可用性を再度有効にする際に必要となります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration のユーザ インターフェイスから、**[システム (System)] > [プレゼンス冗長グループ (Presence Redundancy Groups)]** を選択します。
 - ステップ 2** **検索** をクリックして、グループを選択します。
 - ステップ 3** **[プレゼンス冗長グループの設定 (Presence Redundancy Group Configuration)]** ウィンドウで、**[高可用性を有効にする (Enable High Availability)]** チェックボックスをオフにします。
 - ステップ 4** **[保存 (Save)]** をクリックします。
 - ステップ 5** 各プレゼンス冗長グループに対して、この手順を繰り返します。
 - ステップ 6** 完了後、さらに変更を行う前に、新しい HA 設定がクラスタ全体にわたって同期されるまで、少なくとも 2 分待機します。
-

次のタスク

[サービスの停止 \(5 ページ\)](#)

サービスの停止

IM アドレススキームの設定を更新する前に、基本の IM and Presence Service を停止します。必ず所定の順序でサービスを停止してください。

始める前に

[高可用性の無効化 \(5 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 Cisco Unified IM and Presence Service アビリティで、**ツール > コントロールセンター - ネットワーク サービス** を選択します。

ステップ 2 次の IM and Presence Service を停止します。この順序で、サービスを選択し、[停止 (Stop)] ボタンをクリックしてください。

- a) **[Cisco Sync Agent]**
- b) **Cisco Client Profile Agent**

ステップ 3 両方のサービスが停止したら、**[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)]** を選択し、次のサービスをこの順序で停止します。

- a) **[Cisco Presence Engine]**
- b) **Cisco SIP Proxy**

ステップ 4 両方のサービスが停止したら、**[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)]** を選択し、次のサービスを停止します。

- **Cisco XCP ルータ**

(注) XCP Router サービスを停止すると、すべての関連 XCP 機能サービスが自動的に停止します。

次のタスク

[IM アドレススキームの割り当て \(6 ページ\)](#)

IM アドレススキームの割り当て

新しいドメインおよびIMアドレススキームを設定したり、既存のドメインおよびアドレススキームを更新したりするには、次の手順を使用します。



(注) 設定する IM アドレススキームは、必ずすべてのクラスタ間で一致するようにしてください。

始める前に

[サービスの停止 \(5 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理**で、**プレゼンス > 設定 > 詳細設定**を選択します。
- ステップ 2** 新しいデフォルトドメインを割り当てるには、[デフォルトドメイン (Default Domain)] チェックボックスにマークを付け、テキストボックスに新しいドメインを入力します。
- ステップ 3** アドレススキームを変更するには、[IM Address Scheme (IM アドレススキーム)] チェックボックスにマークを入れ、ドロップダウンリストボックスから次のいずれかのオプションを選択します。
- **UserID@[Default_Domain]** — 各 IM ユーザアドレスは、UserID からデフォルトドメインと共に取得されます。これがデフォルト設定です。
 - **ディレクトリ URI** — 各 IM ユーザアドレスは、Cisco Unified Communications Manager でそのユーザに関して設定されているディレクトリ URI と一致します。
- (注) このオプションを選択すると、展開されたすべてのクライアントが、IM アドレスとしてディレクトリ URI をサポートし、EDI ベースまたは UDS ベースのディレクトリ統合に対応している必要があります。Jabber との UDS ベースの統合を行うには、Jabber のリリース 10.6 以降を実行している必要があります。

- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

ステータス領域の更新進行状況を監視できます。

IM アドレススキームとしてディレクトリ URI を選択する場合、展開クライアントが複数ドメインをサポートできることを確認するプロンプトが表示される場合があります。続行するには [OK (OK)] をクリックします。または [Cancel (取消)] をクリックします。

ユーザが [Directory URI (ディレクトリ URI)] 設定が無効に設定されている場合は、ダイアログボックスが表示されます。続行するには、[OK (OK)] をクリックし、または [Cancel (取消)] をクリックします。次に、IM アドレススキームを再設定する前にユーザ設定をします。

システムアップデートは完了まで最長で 1 時間かかる場合があります。変更を再適用するには、[再試行 (Re-try)] をクリックします。または [取消 (Cancel)] をクリックします。

次のタスク

アドレス指定スキームとして `user@default_domain` を設定し、ディレクトリ URI を使用していない場合は、[サービスの再起動 \(8 ページ\)](#) に進みます。

アドレススキームとしてディレクトリ URI を設定した場合は、以下のオプションのいずれかを選択します。

- [ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て \(10 ページ\)](#)
- [ディレクトリ URI の手動割り当て \(11 ページ\)](#)

IM アドレスの例

IM and Presence Service で使用可能な IM アドレス オプションの例。

IM and Presence Service デフォルト ドメイン : cisco.com		
ユーザ : : 山田太郎		
ユーザ ID : ty12345		
メール ID : tyamada@cisco-sales.com		
SIPURI : : taro.yamada@webex.com		

IM アドレス形式	ディレクトリ URI マッピング	IM アドレス (IM Address)
<userid>@<domain>	適用対象外	js12345@cisco.com
ディレクトリ URI (Directory URI)	mailid	jsmith@cisco-sales.com
ディレクトリ URI (Directory URI)	msRTCSIP-PrimaryUserAddress	john.smith@webex.com

サービスの再起動

IM アドレススキームを設定したら、サービスを再起動します。これは、ユーザアドレス情報を更新したり新しいユーザをプロビジョニングしたりする前に実行する必要があります。サービスの起動は、必ず所定の順序で行ってください。

始める前に

- [IM アドレススキームの割り当て \(6 ページ\)](#)
- アドレススキームとしてディレクトリ URI を設定した場合は、サービスを再起動する前に以下のオプションのいずれかを完遂します。
 - [ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て \(10 ページ\)](#)
 - [ディレクトリ URI の手動割り当て \(11 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 Cisco Unified IM and Presence Service アビリティで、ツール > コントロールセンター - ネットワーク サービスを選択します。

ステップ 2 サービスを選択し、[起動 (Start)] ボタンをクリックして、次のサービスを起動します。

- Cisco XCP ルータ

- ステップ 3** サービスが起動したら、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center – Feature Services)] を選択し、次のサービスをこの順序で起動します。
- Cisco SIP Proxy**
 - [Cisco Presence Engine]**
- ステップ 4** 次の手順に進む前に、Cisco Presence Engine サービスがすべてのノードで実行中であることを確認します。
- ステップ 5** [ツール (Tools)] > [コントロールセンター - ネットワークサービス (Control Center – Network Services)] を選択し、次のサービスをこの順序で起動します。
- Cisco Client Profile Agent**
 - [Cisco Sync Agent]**

次のタスク

[高可用性の有効化 \(9 ページ\)](#)

高可用性の有効化

IM アドレススキームを設定し、サービスを再起動した後に、クラスタ内の各プレゼンス冗長グループの高可用性を再度有効にするには、以下の手順に従います。

始める前に

高可用性を有効化する前に、すべてのサービスが IM and Presence データベース パブリッシャー ノードおよびサブスクリバノードで稼働していなければなりません。サービスが再起動してから30分以内の場合は、高可用性を有効にする前に Cisco Jabber セッションが再作成されたことを確認します。十分な時間を確保しない場合、セッションが作成されていない Jabber クライアントでプレゼンスは機能しません。

Cisco Jabber セッションの数を取得するには、すべてのクラスタ ノードで `show perf query counter Cisco Presence Engine Active JsmSessions` CLI コマンドを実行します。アクティブセッションの数は、高可用性を無効にした際に記録したユーザ数と一致するはずですが、

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] リストから、サービスを再アクティブ化するノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3** **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスを選択します。
- **Cisco Client Profile Agent**
 - **Cisco Sync Agent**

- Cisco XCP Router

ステップ 4 [再起動 (Restart)] をクリックします。

ステップ 5 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ 6 **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスを選択します。

- Cisco SIP Proxy
- [Cisco Presence Engine]

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て

外部 LDAP ディレクトリからユーザを同期している場合は、この手順を使用して、ディレクトリ URI を割り当てに使用する外部 LDAP ディレクトリのソース フィールドを割り当てることができます。LDAP ディレクトリの同期が行われると、設定したフィールドの値からディレクトリ URI が割り当てられます。



(注) 最初の LDAP 同期がすでに行われていた場合、Cisco Unified Communications Manager では、LDAP ディレクトリの既存の設定に新しい設定を追加することはできません。外部 LDAP ディレクトリに追加された新しいアイテムを同期することはできても、Cisco Unified Communications Manager で LDAP 設定を編集することはできません。すでに LDAP ディレクトリを同期していた場合：

- ディレクトリ URI をユーザに割り当てるには、バルク管理ツールを使用します。詳細については、『*Bulk Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- ユーザにディレクトリ URI を手動で割り当てます。

始める前に

[IM アドレススキームの割り当て \(6 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM 管理から、**システム > LDAP > LDAP ディレクトリ**を選択します。

ステップ 2 ディレクトリ URI のドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。

- **メール**：ユーザのメールアドレスと合わせてディレクトリ URI を設定することで、メール、IM、音声、および動画の通信にユーザの ID を一貫して指定できるようになります。

- **msRTCSIP-PrimaryUserAddress** : ディレクトリ URI を Microsoft OCS/Lync SIP URI (msRTCSIP-PrimaryUserAddress) にマップします。

(注) ディレクトリ URI は、LDAP 同期が行われるまでプロビジョニングされません。LDAP ディレクトリ同期の設定の詳細は、[LDAP ディレクトリの設定](#)を参照してください。

次のタスク

[サービスの再起動 \(8 ページ\)](#)

ディレクトリ URI の手動割り当て

LDAP を使用していない場合は、この手順を使用して、ユーザ毎にディレクトリ URI を手動で入力することができます。



- (注) また、一括管理ツールを使用して、CSV ファイル経由で、ディレクトリ URI を多数のエンドユーザにプロビジョニングすることもできます。一括管理の使用の詳細は、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html> の *Cisco Unified Communications Manager* 一括管理ガイドを参照してください。

LDAP ディレクトリが未同期の場合は、LDAP ディレクトリ同期を使用してユーザのディレクトリ URI をプロビジョニングすることができます。

始める前に

[IM アドレススキームの割り当て \(6 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM 管理で、**ユーザ管理 > エンドユーザ**を選択します。
 - ステップ 2** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
 - ステップ 3** 設定するエンドユーザを選択します。
 - ステップ 4** **ユーザ情報** エリアで、**ディレクトリ URI** フィールドにディレクトリ URI を入力します。
 - ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[サービスの再起動 \(8 ページ\)](#)

